

札幌駅交流拠点先導街区整備基本構想

【概要版】

平成 29 年（2017 年）2 月

札幌市

1 札幌駅交流拠点先導街区整備基本構想の位置づけ

<背景>

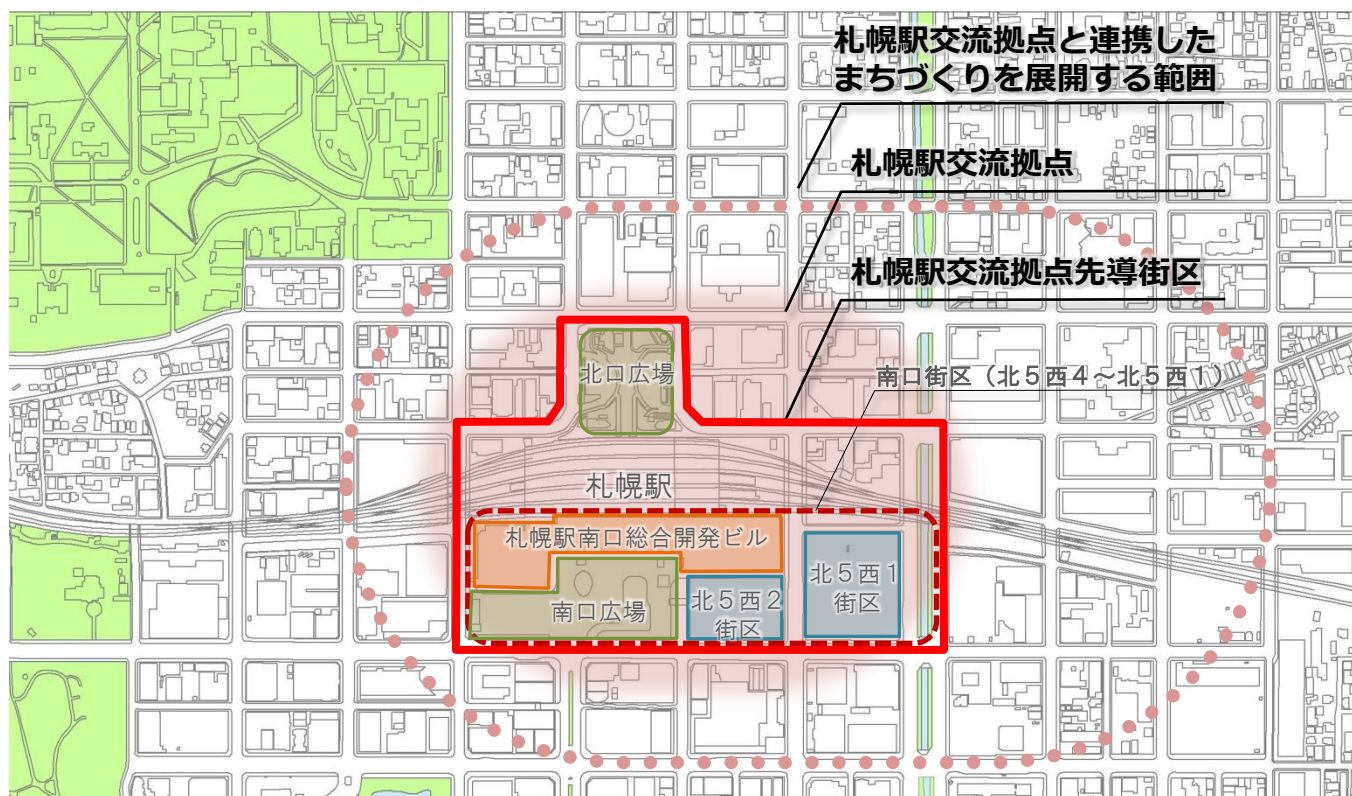
- 社会潮流の変化や各種上位計画の見直しに対応して、札幌・北海道の国際競争力をけん引する札幌駅交流拠点の機能強化検討の必要性
- 北海道新幹線の札幌開業を踏まえ、ターミナル駅直近にも関わらず土地の有効利用が図られていない先導街区の整備方針、及び交通結節点としての機能強化の検討の必要性

<目的>

- ◆ 札幌駅交流拠点先導街区の整備や関連事業に対する**市の基本的な考え方を整理**
- ◆ これを基に、今後策定予定の（仮称）札幌駅交流拠点まちづくり計画や、関連事業の整備計画等について、関係する事業者や行政機関との検討を行う

<対象範囲>

まちづくりを先導する街区として、主要交通施設や関連開発が見込まれる、JR札幌駅、南北の駅前広場、バスターミナルのある北5西2街区、及び駐車場等で暫定利用中の北5西1街区を含んだ下図の約17haの範囲を対象に設定



2 札幌駅交流拠点先導街区の役割

上位計画での位置づけ

札幌市まちづくり戦略ビジョン〈戦略編〉
新たな活動や交流の場となる札幌駅交流拠点等の整備を検討、実施

第2次都心まちづくり計画
北海道・札幌の国際競争力をけん引し、その活力を展開させる「起点」の形成

社会潮流の変化、札幌・北海道の動向

- 防災意識の向上、社会的要請
- 環境低負荷型都市づくりの推進
- 国際的な都市間競争への対応
- 空港・港湾の国際化の流れと、広域交通アクセス強化の必要性
- 北海道新幹線の札幌開業
- 冬季オリンピック・パラリンピック招致

提言書 札幌駅交流拠点再整備構想案

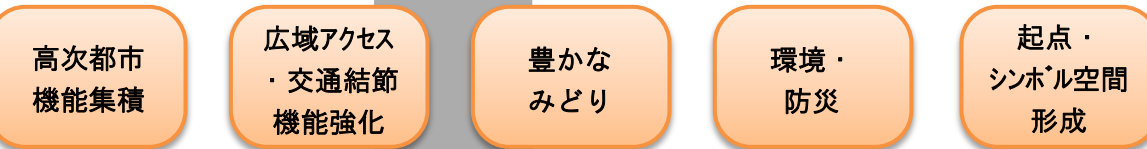
<札幌駅交流拠点の拠点形成の方向性>

- ・ 道都さっぽろの“玄関口”にふさわしい顔づくり
- ・ 北海道・札幌をアピールする場の形成

<札幌駅交流拠点の役割>

集客交流都市としての国際競争力を高めるための拠点

<着目点>



札幌駅交流拠点先導街区の役割

1 世界とつながる国際ビジネス・観光促進のハブ

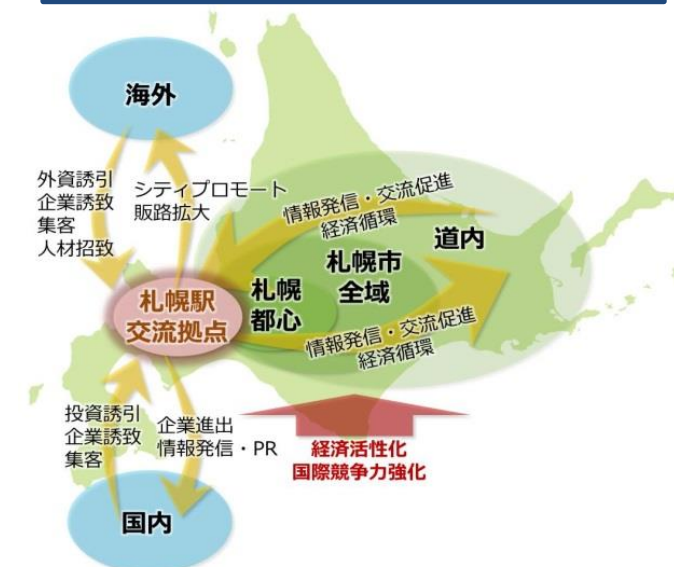
- ◆ 国際的に評価される質の高い都市空間の創出
- ◆ 安心して働き、訪れ、生活できる信頼性の高いまちの形成

2 都市と自然とが融合した、札幌・北海道のシンボル

- ◆ 札幌・北海道を象徴する都市空間の創出
- ◆ 環境首都・札幌のシンボル空間として世界へPR

3 都心の回遊・にぎわいの起点となる顔

- ◆ 駅と街をつなぐ起点として、誰もがわかりやすく使いやすい環境を創出
- ◆ 世界都市札幌の玄関口にふさわしい空間の創出



3 実現に向けた取組の考え方（1）

- ・札幌駅交流拠点先導街区の役割の実現のため、街並み形成、機能集積、環境配慮・防災、基盤整備の4つのテーマごとに取組の考え方を提示
- ・行政と民間の役割分担、連携、協働により実現を目指す

＜街並み形成の取組の目標＞

国際的な交流拠点にふさわしい札幌・北海道を象徴する街並み形成

- 方針1：南口街区全体での魅力的で質の高い都市空間の形成
- 方針2：パブリックライフ※の起点となる南口広場の充実・強化
- 方針3：北5西1・北5西2街区の一体的な整備によるシンボル空間の創出
- 方針4：四季折々のにぎわいが感じられるオープンスペースの形成
- 方針5：周辺建物を含めたにぎわいのある街並み形成
- 方針6：拠点にふさわしい高次都市機能の集積と高層部の景観形成

※パブリックライフ：働く、学ぶ、遊ぶ、住むといった基本的な都市の生活を支える交流・社交活動。言葉を交わす直接のやりとりだけでなく、人と人、人と都市空間との間の豊かなコミュニケーション活動。



駅前に象徴的な大規模緑化空間を形成する広場
(品川 セントラルガーデン)



市民等のパブリックライフの起点となる広場
(ポートランド Pioneer Courthouse Square)

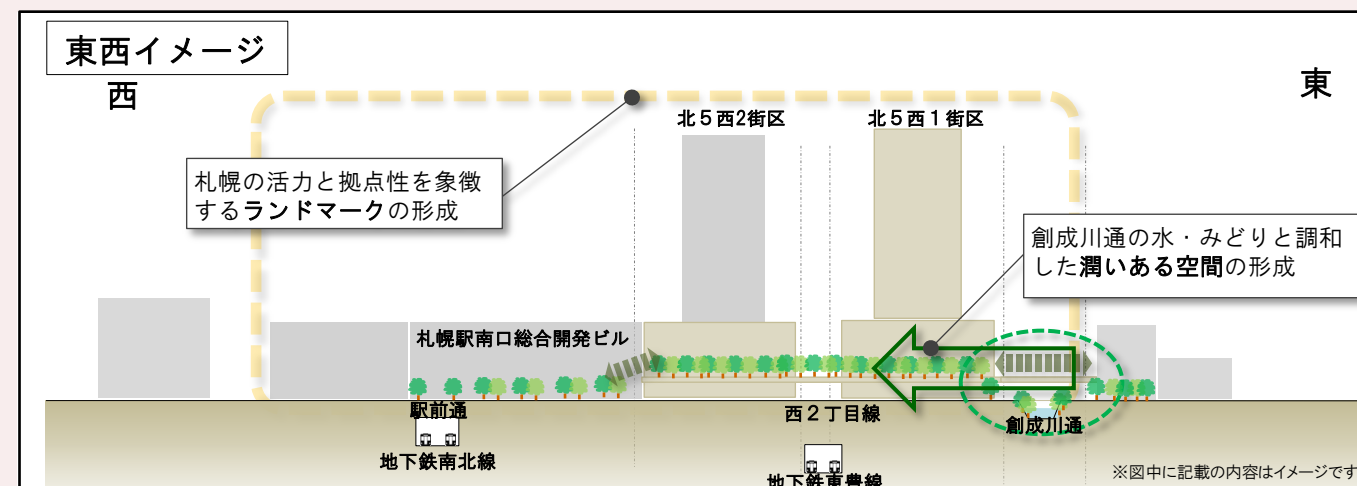
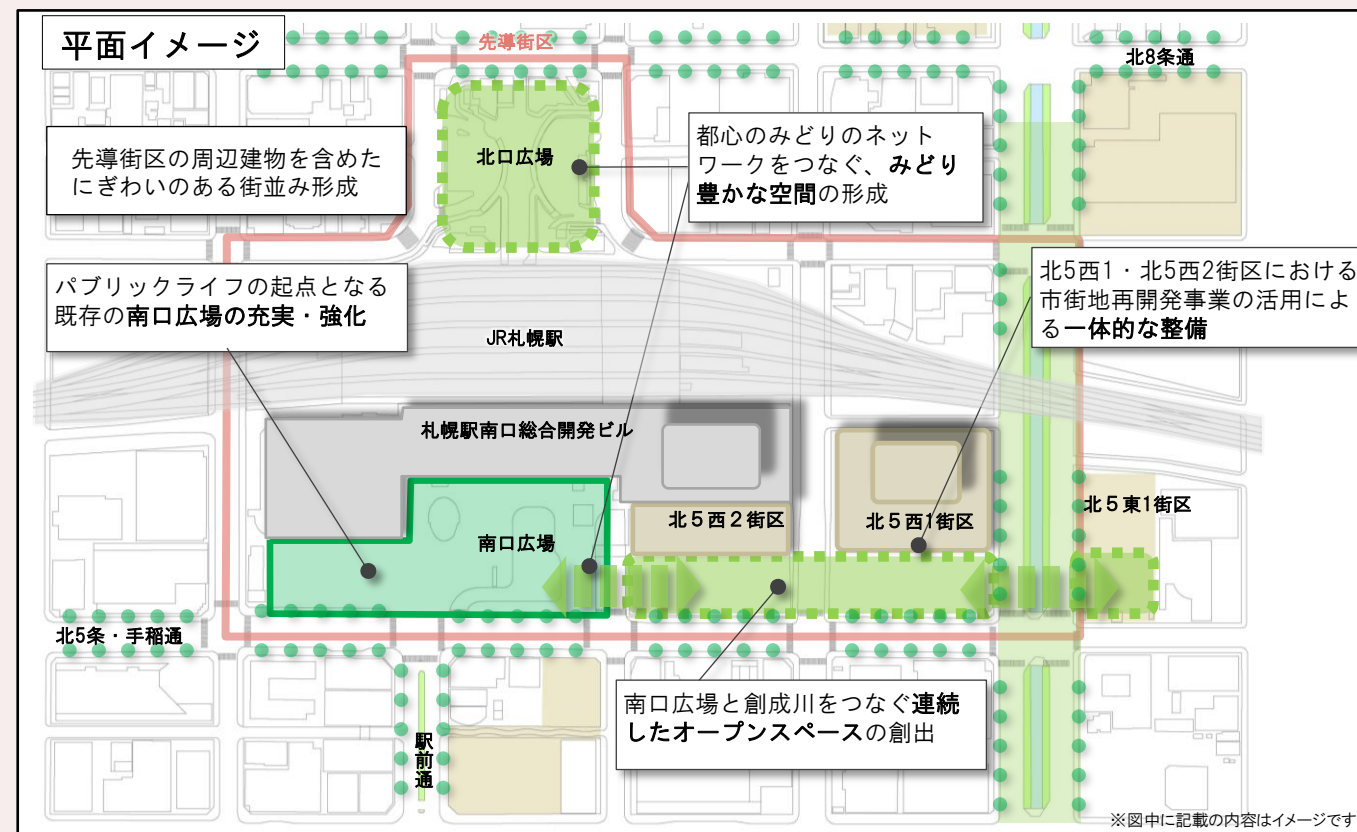


1年を通してにぎわいあるアクティビティが展開されるオープンスペース
(富山グランドプラザ)



店舗等にぎわいある顔で囲まれた広場
(ポズナン (ポーランド) Stary Rynek)

＜整備・検討イメージ＞



3 実現に向けた取組の考え方（2）

＜機能集積の取組の目標＞
国内外からの投資を促進する国際ビジネス・観光ハブの形成

方針1：札幌・北海道の魅力・情報発信機能、にぎわい機能の整備

方針2：国際水準・多言語対応の滞在・サポート機能の整備

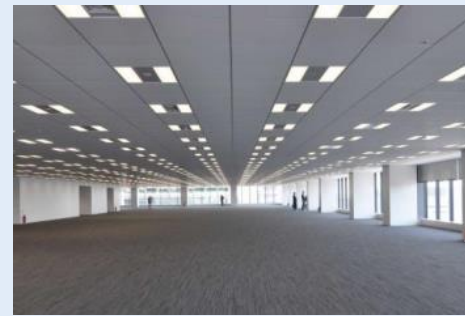
方針3：札幌の優位性を活かした企業誘致・産業創造の促進機能の整備



多言語対応のコンシェルジュが対応する情報窓口 (Tokyo City i)

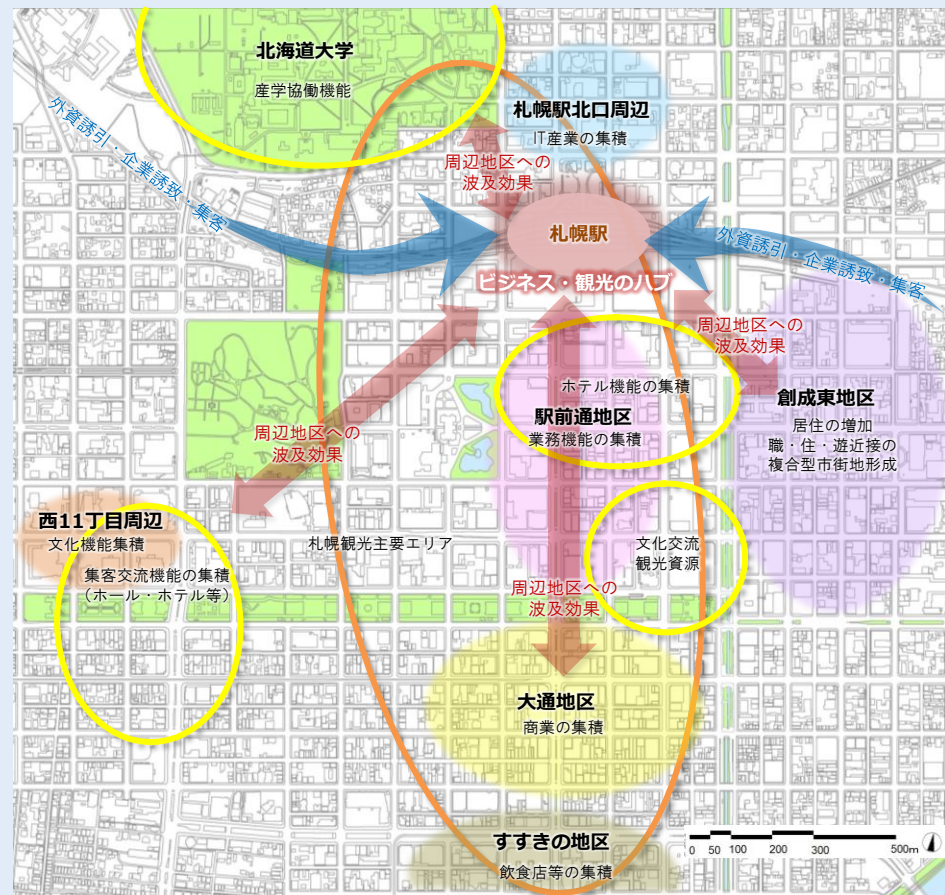


国際水準の宿泊機能



高規格なオフィス空間

＜取組の目標イメージ＞



＜環境配慮・防災の取組の目標＞
環境首都・札幌をリードする環境・防災拠点の形成

方針1：都心の面的エネルギー利用の強化・拡大に資するエネルギー拠点の整備

方針2：先進的な環境配慮型建築のショーケースとしての整備

方針3：エリアエネルギーマネジメントシステムの活用

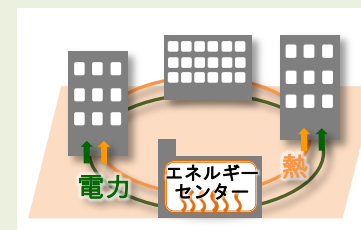
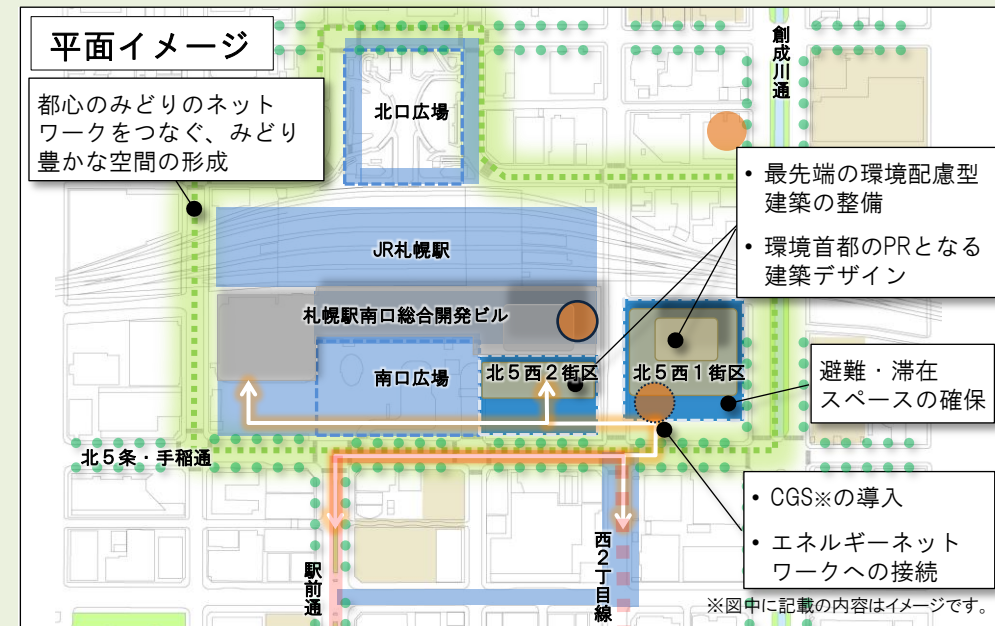
方針4：環境首都・札幌の象徴となる潤いあふれる緑化空間の形成

方針5：帰宅困難者※の受入空間や情報提供機能の導入による防災拠点機能の強化

方針6：自立分散型電源の確保による事業継続性の高い拠点整備

方針7：周辺地区、行政との災害時連携体制の構築

※帰宅困難者：自宅までの距離が遠く、徒歩による帰宅が困難な者。



自立分散電源の確保による事業継続性の高い拠点整備

- エネルギーセンター
- エネルギーセンター/CGS
- エネルギーセンター/CGS(想定)
- 熱・電力ネットワーク(構築イメージ)
- 一時滞在施設(現状・計画)
- 一時退避場所
- 一時滞在施設(想定)

※CGS: コージェネレーションシステム。発電時の廃熱などを用いて、電力と熱を供給し、エネルギーの効率的利用をはかるシステム。



環境政策のPR展示 (コペンハーゲン House of Green)



豊かな緑と水で潤いある街区を形成 (大阪 グランフロント大阪)



一時退避場所として活用可能な避難・滞在スペースの確保

3 実現に向けた取組の考え方（3）

＜基盤整備の取組の目標＞

国内外との連携・交流を促進する利便性の高い基盤整備の推進

方針1：世界と都心・周辺都市をつなぐ交通結節機能の強化

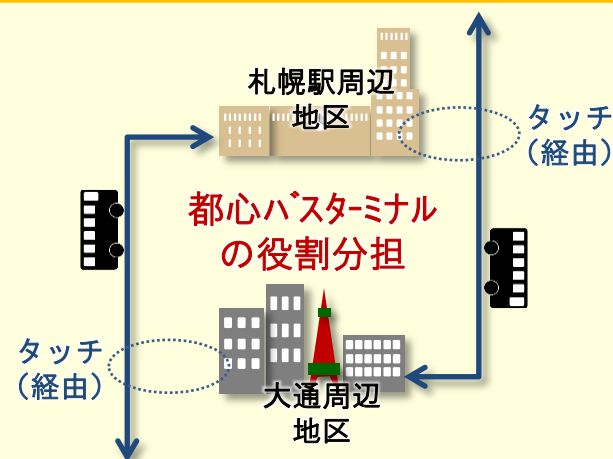
方針2：交流と創造を促進するオープンスペースの連続的配置

方針3：周辺街区とつながる重層的なネットワークの構築による回遊性の向上

＜都心バスターミナルの機能配置について＞

利用者の利便性の向上や、バス運行上の効率性の観点から、札幌駅周辺地区と大通周辺地区にバスターミナル機能を配置し、運行は相互の地区にタッチ（経由）することを基本として検討を進めます。

札幌駅バスターミナルは北5西2街区での建替えを基本に検討を進め、北5西1街区への機能分担については今後の検討課題とします。



＜都心の地下歩行ネットワークについて＞

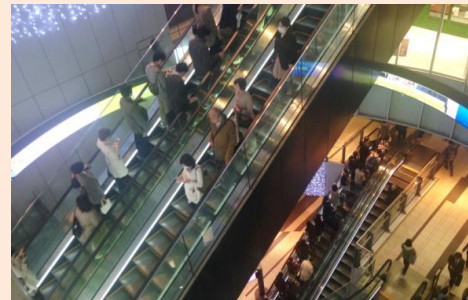
札幌駅交流拠点のまちづくりの取組を効果的に都心全体へ波及させるため、西2丁目線などの地下通路整備や沿道ビルの歩行空間との連携による、地下歩行ネットワークの拡充を検討します。



鉄道や地下鉄を認識しやすい吹抜け空間（ベルリン中央駅）

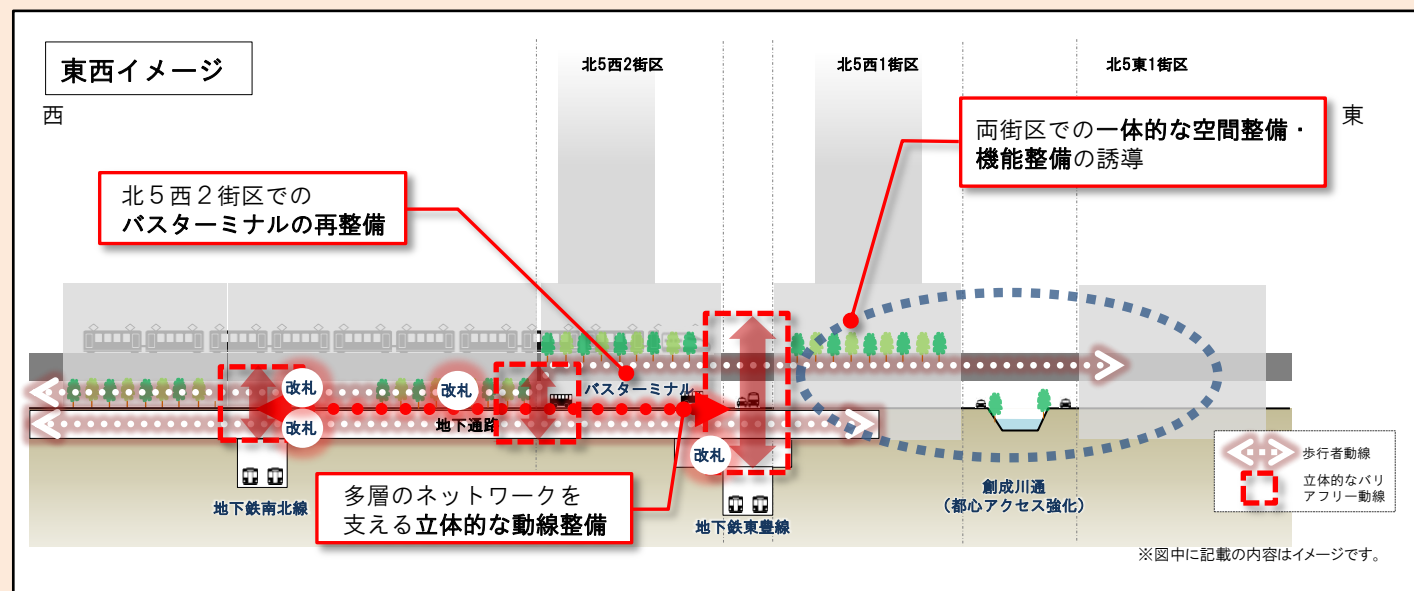
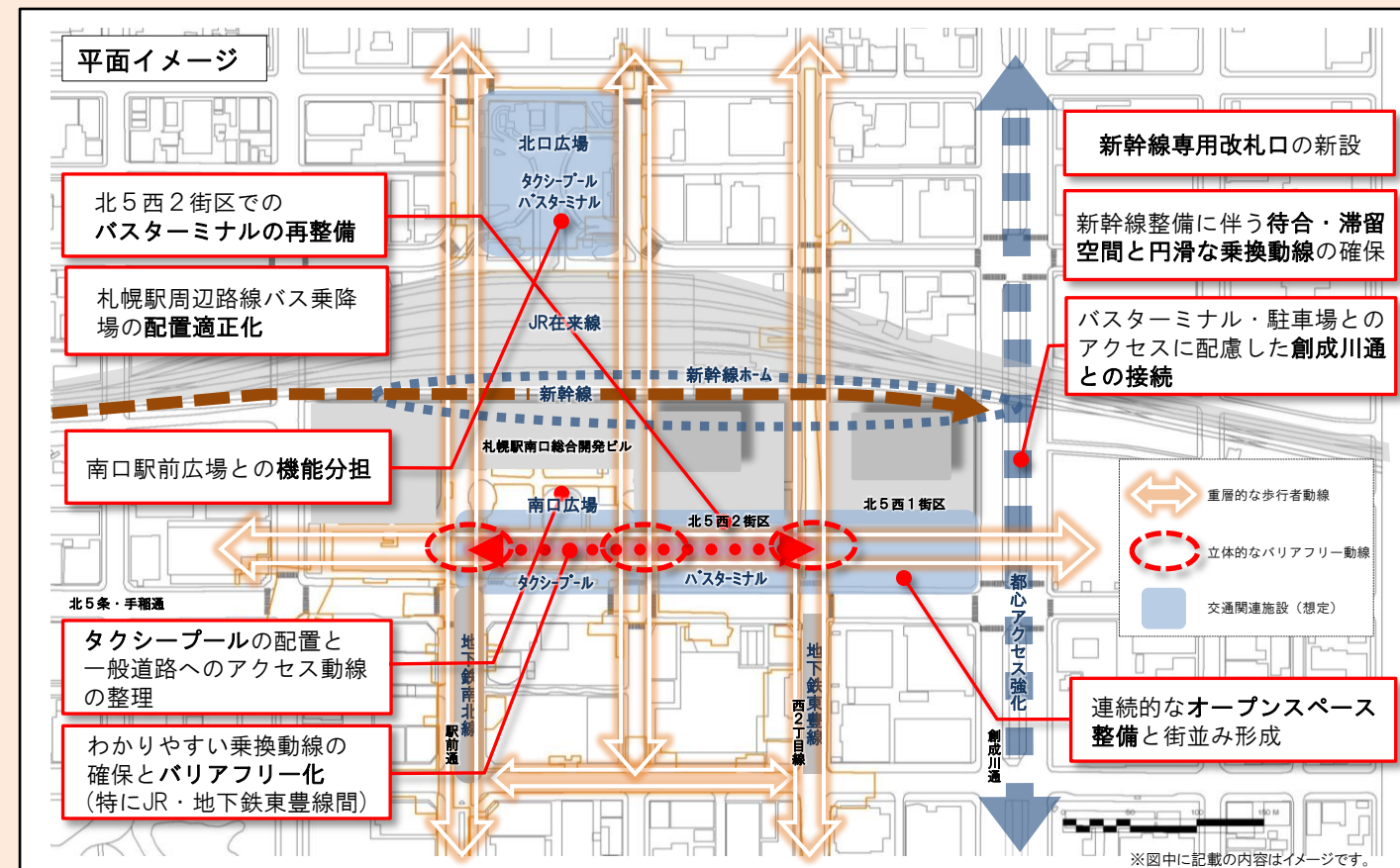


サンクンと地上が立体的に連続した広場（姫路駅北駅前広場）



地下のにぎわいを建物内へ引き込む吹抜け空間（渋谷ヒカリエアーバンコア）

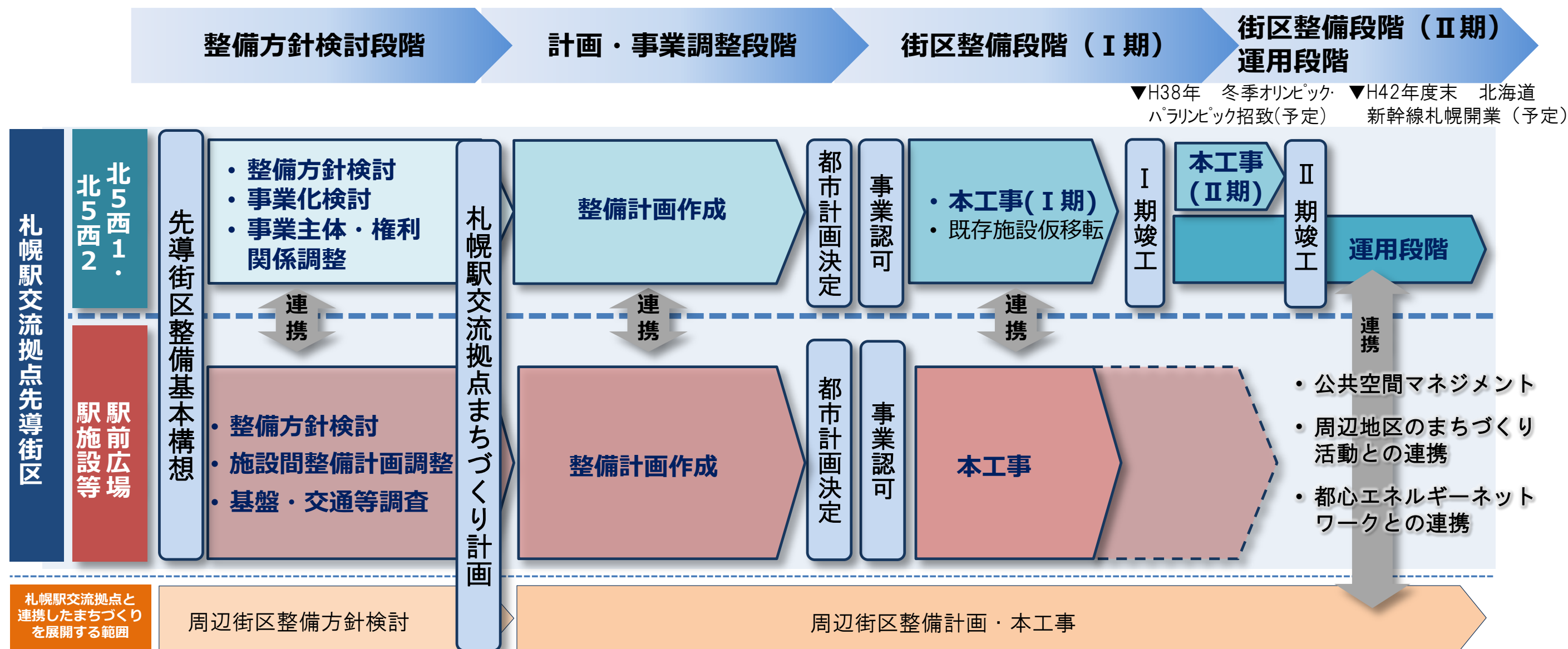
＜整備・検討イメージ＞



4 実現に向けた取組の進め方

■ 段階的な取組のイメージ

北5西1・北5西2街区の一体的な整備の検討に加え、**関連事業との連携・調整**を図りながら当構想の実現に向けた取組を進める



■ 取組体制のイメージ

- ◆ 検討・計画段階：北5西1・北5西2街区等の**再開発準備組織**と札幌駅交流拠点の**まちづくり協議会の連携**による方針検討と実現化
- ◆ 運用段階：**エリアマネジメント体制の構築**と他地区との連携